

Lesson8

文型 (まとめ)/コーヒー、入れましょう。

I will make you a cup of coffee.

英語では単語を並べる順番に意味があります。これは**文型の基本的な考え方**です。でも、順番や文型だけで理解することには**限界**があります。場合によっては、どのような**状況**かを考えて文を**理解**することが不可欠となります。例えば、**I will make you a cup of coffee.** 「コーヒー、入れましょう。」は **SVOO 型**の文と理解するのが自然ですが、実は **SVOC 型**の文としても成り立つのです。このような場合は、その状況を踏まえ、正しく文を理解する必要があります。

このレッスンを受講することで文型に関するポイントについて理解できます。

■ Topics

文型 (まとめ)/ I will make you a cup of coffee.

Topic1 文型に関するポイント

- 文型の後ろに名詞や動詞を直接つけられない
- 長い主語
- 述語動詞以外に動詞が使われても文型と同様の構成を取る

Topic2 複数の使い方がある動詞 (例 : find, make など)

Wrap-up

DVD 版では練習問題の解説も行います。



I will make you a cup of coffee.

■ Topic1

文型に関するポイント

●文型の後ろに名詞や動詞を直接つけられない

文型で構成される部分の後ろに名詞や動詞を直接つけることはできません。

The man was waiting for the green light.

「その男の人は信号が青になるのを待っていました。」

主語(S) 冠詞+名詞 the man 「その男の人」	述語動詞(V) "be"動詞+動詞のing形 was waiting 「待っていた」	追加情報 前置詞+冠詞+形容詞+名詞 for the green light 「青の信号を」
--------------------------------	---	---

注意 : **The man was waiting the green light.** と **waiting** の後ろに名詞を直接つけることはできません。

Ms. Wilson gave us a key to her office.

「ウィルソンさんは私達に彼女の事務所のカギをくれました。」

主語(S) 名詞 Ms. Wilson 「ウィルソンさん」	述語動詞(V) 動詞 gave 「～に～を与えた」	目的語(人) 代名詞 us 「私達に」	目的語(物) 冠詞+名詞 a key 「一つのカギ」	追加情報 前置詞+代名詞+名詞 to her office 「彼女の事務所への」
--	------------------------------------	---------------------------	-------------------------------------	---

注意 : **Ms. Wilson gave us a key her office.** のように **to** を取ってじかにつなげてしまうことはできません。

We discussed many issues to determine the cause of the system failure.

「システム障害の原因を究明するため私達は多くの問題点について話し合いました。」

主語(S) 代名詞 we 「私達」	述語動詞(V) 動詞 discussed 「議論しました」	目的語(O) 形容詞+名詞 many issues 「多くの問題点」	追加情報 不定詞句 (to+動詞+冠詞+名詞+前置詞+冠詞+名詞) to determine the cause of the system failure 「システム障害の原因を究明するため」
-------------------------	--	---	--

注意 : **We discussed many issues determine the cause of the system failure.** のように、不定詞の **to** を取って動詞を直接つなげることはできません。

●長い主語

文が長くなっても**基本的な構成**は変わりません。**どのような形の文**であるかを**把握**することは全体の意味を理解するためにとっても大切です。

Only one of the proposals that Mr. Smith presented at the meeting was acceptable.

「ミーティングでスミスさんが示した提案のうちたった一つだけが受け入れられるものでした。」

主語(S) 副詞 + 名詞 + 前置詞 + 冠詞 + 名詞 + 関係代名詞節	述語動詞(V) be 動詞	補語(C) 形容詞
only one of the proposals (that Mr. Smith presented at the meeting) 「ミーティングでスミスさんが提示した提案のうちたった一つだけ」	was 「でした」	acceptable 受容できる、条件を満たしている

注意 : **only one of the proposals** の後ろに **that Mr. Smith presented at the meeting** という**関係代名詞節**がついています。

Mr. Smith presented proposals at the meeting.

「スミスさんは複数の提案を会議で提示しました。」

そして

Only one of the proposals was acceptable.

「その中の1つだけが受け入れられるものでした。」

という意味になります。文が長いと全体の意味が分かりにくくなってしまいますが、**基本的な構成**（ここでは **SVC** 型）が分かっていると、文の理解が容易になります。

●述語動詞以外に動詞が使われても文型と同様の構成を取る

文の**述語動詞**だけでなく**不定詞句**などに使われている**動詞**も**文型の構成と同じ形式**（例：後ろに形容詞をとる）を伴います。

You have the right to remain silent. 「あなたには黙秘権があります。」

remain silent の部分は **remain** 「～のままている」(**SVC** 型の動詞) + **silent** 「黙っている」(形容詞) で構成されています。

■ Topic2

複数の使い方がある動詞（例：find, make など）

順番だけで理解することには**限界**があります。**状況**からどのような**理解**が自然か考えることも**重要**です。

find の場合の例：

SVOO 型：主語(S) **find** 目的語(人) 目的語(物) … (主語)は(人)のために(物)を見つける。

SVOC 型：主語(S) **find** 目的語(O) 補語(C) … (主語)は(O)を(C)だと気付く。

・ SVOO 型

I found him a nice teacher. 「私は彼に良い先生を見つけてあげた。」

主語(S) 代名詞 I 「私」	述語動詞(V) 動詞 found 「～に～を見つけてあげた」	目的語(人1)代名詞 him 「彼に」	目的語(人2)冠詞+形容詞+名詞 a nice teacher 「1人の良い先生」
--------------------	-----------------------------------	------------------------	--

注意 : **find** 人物は「人に物を見つけてあげる」という意味になりますが、今回の例文のように物のところに人が入り **find** 人 1 人 2 「人 1 に人 2 を見つけてあげる」となることもあります。

・ SVOC 型

I found him a nice teacher. 「私は彼を良い先生だと思った。」

主語(S) 代名詞 I 「私」	述語動詞(V) 動詞 found 「～を～と思った」	目的語(O) 代名詞 him 「彼を」	補語(C) 冠詞+形容詞+名詞 a nice teacher 「1人の良い先生」
--------------------	-------------------------------	------------------------	---

注意 : **I found him to be a nice teacher.** と **to be** を入れることで **SVOC** 型であることが明確になります。

スコアアップ!

(DVD 版のみ収録)



例題 : Additional work _____ required to complete the project.

- a. is
- b. to be
- c. are

文の構成が理解できていればどの位置にどの品詞を入れれば良いか想像が付きまます。上の問題では **work** が主語なのか動詞なのかがポイントになる問題です。**additional** が形容詞であることが分かれば **work** が名詞で主語であることが分かります。そうすると、**a. is** が最適の答えです。構成的に **b. to be** を入れても述語動詞がないので入れられません。また、**c. are** は主語が複数形ではないことから違うと分かります。

このように名詞と動詞の両方の意味がある単語には注意が必要です。

例 : **work, try, plan, talk, purchase, etc.**

Additional work is required to complete the project.

「そのプロジェクトを完成させるためには追加の仕事が必要である。」

少し古いですが"**Bewitched**"「奥様は魔女」という番組がありました。魔女のサマンサと彼女の魔法使いの親戚達とサマンサの主人のダーリン（普通の人）とのやりとりが面白い **sitcom** (**situation comedy** の略「ホームコメディ」のこと) でした。このようなドラマの中で **I will make you a cup of coffee.** という文が使われたとしたら、**SVOC** 型の文だと理解して「私はあなたを一杯のコーヒーにしちゃうわよ。」という理解も可能かもしれません。でも、私達の日常生活の中では魔法使いがいるかどうか心配する必要はなさそうです。ですから、**I will make you a cup of coffee.** は「私はあなたに一杯のコーヒーを入れてあげましょう。」と理解するのが自然です。英語では単語の順番に意味があり、順番により単語動詞の関係が決まります。しかし、英語の動詞の中には **make** のように複数の異なる文型をとる動詞もあり紛らわしいこともあります。そのような場合、状況を考えて意味を理解することが大切です。**After this lesson, I will make you a cup of coffee.** 私は魔法使いではないのでご安心ください。残念ながら、コーヒーをお入れすることもできませんが、……

コーヒーブレイク (DVD 版のみ収録)

Wrap-up

- 文型部分がどこか把握することが大切
- 述語動詞以外に動詞が使われても文型と同様の構成を取る
- 順番だけで理解することには限界もある



I will make you a cup of coffee.

「コーヒー、入れましょう。」

主語 代名詞

I 「私」

述語動詞 動詞

will make 「～に～を作ってあげましょう」

目的語(人)代名詞

you 「あなたに」

目的語(物)冠詞+名詞+前置詞+名詞

a cup of coffee 「一杯のコーヒー」

Practice

先生の解説を聞き、下記の練習問題を解いてみましょう。(DVD版のみ収録)

1. The sales manager _____ about the importance of setting proper goals.
 - a. talked
 - b. discussed
 - c. described
 - d. said
- 2 Shareholders gave the company permission _____ its strategies.
 - a. change
 - b. changed
 - c. to change
 - d. to be changed
3. The survey found that more people than initially anticipated _____ to travel abroad during the winter holiday season.
 - a. planning
 - b. for planning
 - c. be planning
 - d. were planning

Homework

このレッスンに関連した下記の練習問題に挑戦してみましょう。

- 1 . The famous actress shared her secrets to stay _____ and healthy.
 - a. diet
 - b. young
 - c. carefully
 - d. health
- 2 . School officials in the district were reluctant _____ classes.
 - a. cancel
 - b. cancelled
 - c. to cancel
 - d. to be cancelled
- 3 . The news of Gloria's winning the medal made her mother _____ .
 - a. happy
 - b. glory
 - c. excitement
 - d. confidently

Explanation - Practice

1. The sales manager talked about the importance of setting proper goals.

「その営業部長は適切なゴールを設定することの大切さについて話しました。」

解説 : **a. talked** 「話した」(動詞の過去形) は後ろの **about** とつなげると **talk about** ~ で「~について話す」の意味になります。この問題では前置詞 **about** が必要なものを見極めるのがポイントです。レッスン4の **SVO** 型についての復習です。

b. discussed 「~について話し合った」(動詞の過去形)、**c. described** 「~について説明した」(動詞の過去形) は他動詞なので **about** は不要です。**d. said** 「言った」(動詞の過去形) は自動詞と他動詞の両方の使い方がありますが **about** とつなげて使いません。(自動詞と他動詞についてはレッスン14 一般動詞で解説します)

2 Shareholders gave the company permission to change its strategies.

「株主達はその会社に戦略を変更する許可を与えました。」

解説 : **c. to change** 「変えること」(不定詞 : **to** + 動詞の原形) を入れると、後ろの **its strategies** とうまくつながります。また、文型構成部分(ここでは **SVOO** 型)の後ろにつけるので不定詞の **to** や前置詞などが必要となるので、ここでは **c. to change** が最適です。レッスン内で学習した文型に関するポイントの「文型の後ろに名詞や動詞をつけられない」ということを思い出しましょう。まず、空欄前の **Shareholders gave the company permission** までで、**SVOO** 型の文型が構成されています。**give** を使って"**SV** 人+物"を構成する、**SVOO** 型の典型的な例です。

a. change 「変える」(動詞の原形) を文型構成部分の後ろに直接つけることはできません。**b. changed** 「変えた」(動詞の過去形、過去分詞) を **gave the company permission changed** のようにつなげることは可能ですが、この場合の **changed** は過去分詞となります。**the company permission changed** は「変更された会社の許可」のような意味になりますが、後ろに目的語を付けることはできません。過去分詞の目的語となる語はすでに前についているためです。そのため、**SVOO** 型や **SVOC** 型の動詞の過去分詞以外は目的語や補語を後ろにつけることはできません。**d. to be changed** 「変更されるべく」は前からのつながりは問題ありませんが、後ろに目的語をつなげられません。

3. The survey found that more people than initially anticipated were planning to travel abroad during the winter holiday season.

「その調査では、最初に期待されていたより多くの人達が冬休みシーズンの中に外国旅行を計画していることが分かりました。」

解説 : **d. were planning** 「計画していた」(過去進行形 : **be** 動詞の過去形 + **ing** 形) が正解です。この問題では **that** 節に注目します。**that** 節を適切に構成させるために必要なものは何か? ということから考え始めます。**that** 節内の主語である **more people** に対して述語動詞になることができるものは何かを考えます。(レッスン4 文型(**SVO**)参照)

a. planning 「計画すること」(動詞の **ing** 形)、**b. for planning** 「計画のために」、**c. be planning** 「計画している」(**be** 動詞の原形 + ~**ing**) は **that** 節内の述語動詞になることができないため、**that** 節を構成できません。

注意 : **more people than initially anticipated** は「もともと予想されていたより多い人達」という意味です。

Explanation – Homework

1. The famous actress shared her secrets to stay young and healthy.

「その有名な女優は若く健康なままでいるための彼女の秘密を共有してくれました。」→「その有名な女優は彼女の若さと健康を保つための秘密を公開してくれました。」

解説 : **b. young** 「若い」(形容詞) をつけ **stay young** とすると「若いままでいる」という意味になります。この文の述語動詞は **shared** です。問題文の **The famous actress shared her secrets** までで **SVO** 型の文を構成しています。このレッスンで学習したように、文型の後ろに名詞や動詞を直接つけられません。そこで **to** を付けて、**to stay**…という不定詞句がついているという構成になっています。そして **stay** につなげられる単語を選ぶのがポイントです。**stay** は **SVC** 型の使い方があり、**stay young** とすると「若いままでいる」という意味になります。こうすると **the famous actress** (意味上の主語) = **young** という関係が成り立ちます。

a. diet 「ダイエット、食事」(名詞)、**d. health** 「健康」(名詞) は両方とも **stay** につなげることはできません。**c. carefully** 「注意深く」(副詞) は **SVC** 型の補語として入れることはできません。

2. School officials in the district were reluctant to cancel classes.

「その学区の学校関係者は授業をキャンセルすることを渋っていました。」

解説 : **c. to cancel** 「キャンセルすること」(不定詞 : **to** + 動詞の原形) が正解です。**to cancel** が最も前後のつながりが自然です。**be reluctant to** 動詞 で「～する気がしない」などの意味になります。**School officials in the district were reluctant** までで **SVC** 型を構成していることを見極めます。ここまでで文型が構成されていますから、この後ろに名詞や動詞をつける場合は前置詞や不定詞の **to** などが必要です。

a. cancel 「キャンセルする」(動詞の原形)、**b. cancelled** 「キャンセルされた」(動詞の過去形・過去分詞/形容詞) は **reluctant** (形容詞) につなげることができません。**d. to be cancelled** 「キャンセルされるべく」は構成上は **reluctant** の後ろにつなげることは可能ですが、意味が不自然になってしまいます。また、後ろにもつながりません。

3. The news of Gloria's winning the medal made her mother happy. 「グロリアがメダルを取ったというニュースは彼女のお母さんを幸せにしました。」

解説 : **a. happy** 「幸せな」(形容詞) を入れると **The news of Gloria's winning the medal(S)** 「グロリアがメダルを取ったというニュース」 **made(V)** 「O を C にした」 **her mother(O)** 「彼女のお母さん」 **happy(C)** 「幸せに」 という **SVOC** 型の文にすることができます。**The news of Gloria's winning the medal** という長い主語が形成されていますが、そこまで主語ということが見極められれば、あとは、どのような文型なのかを検討することは容易です。問題文に **SVOC** 型の代表的な動詞である、**made** があります。これにより、空欄には **her mother** とイコール関係になる補語として適当な物を入れれば良いと分かります。

b. glory 「勝利」(名詞) を入れ **made her mother glory** とすると「彼女のお母さんに勝利を作ったあげた」という **SVOO** 型になりますが意味が不自然となります。また、**SVOC** 型と解釈すると **her mother = glory** という意味になるので、こちらも不自然です。**c. excitement** 「興奮」(名詞) では **SVOC** 型の **O=C** の関係になりません。また、**d. confidently** 「自信を持って」(副詞) は補語に入れることはできません。また、**SVO** 型として考えてみると「グロリアがメダルを取ったというニュースは自信を持って彼女のお母さんを作った。」のような意味になり不自然になってしまいます。